



平成 21 年 10 月 28 日

各 位

会社名 オーナンバ株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 小山 正孝  
 (コード番号 5816 東証第二部・大証第二部)  
 問合せ先 常務取締役管理統括部長 鈴木 良弘  
 (TEL. 06-6976-6101)

### 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 21 年 3 月期の決算発表時 (平成 21 年 5 月 12 日) に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位：百万円)

(1) 平成 22 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A) (平成 21 年 5 月 12 日)	百万円 10,500	百万円 △200	百万円 △250	百万円 △250	円 銭 △20 04
今回修正予想 (B)	10,800	130	200	70	5 61
増減額 (B-A)	300	330	450	320	—
増減率	2.9%	—	—	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 21 年 3 月期第 2 四半期)	16,252	494	486	168	13 49

(2) 平成 22 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A) (平成 21 年 5 月 12 日)	百万円 24,000	百万円 350	百万円 350	百万円 200	円 銭 16 03
今回修正予想 (B)	24,000	600	600	300	24 04
増減額 (B-A)	—	250	250	100	—
増減率	—	71.4%	71.4%	50.0%	—
(ご参考) 前期実績 (平成 21 年 3 月期)	30,497	604	133	△722	△57 89

(3) 平成 22 年 3 月期第 2 四半期累計期間個別業績予想数値の修正 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A) (平成 21 年 5 月 12 日)	百万円 7,300	百万円 △110	百万円 △80	百万円 △80	円 銭 △6 41
今回修正予想 (B)	7,380	80	85	△70	△5 61
増減額 (B-A)	80	190	165	10	—
増減率	1.1%	—	—	—	—
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 21 年 3 月期第 2 四半期)	10,268	377	373	106	8 52

## (4) 平成 22 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A) (平成 21 年 5 月 12 日)	百万円 15,000	百万円 100	百万円 150	百万円 100	円 銭 8 02
今回修正予想 (B)	15,000	100	150	0	0 00
増減額 (B - A)	—	—	—	△100	—
増減率	—	—	—	△100.0%	—
(ご参考) 前期実績 (平成 21 年 3 月期)	17,926	291	400	△772	△61 95

## (5) 修正の理由 (特別損失の発生)

## 1. 第 2 四半期累計期間 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日)

当第 2 四半期累計期間の後半における各国の景気刺激策などにより、一部製品の需要に回復の兆しが見えてきております。当社グループにおける太陽光発電配線ユニット及び薄型テレビ用ワイヤーハーネスの需要が回復しつつあるものの、工作機械用及び車載部品用のワイヤーハーネス、電線・ケーブルの需要はまだ厳しい状況が続いております。この状況下、原材料等コストダウン、経費削減、最適地生産等の施策を実施しました結果、主として海外子会社での業績が好転したことにより、連結業績としては、売上高は前回の予想値並みとなりますが、営業利益、経常利益、四半期純利益は予想値を上回る見込みであります。また、個別業績予想につきましても同様の状況下、経費削減に努めましたことにより、利益面では予想値を上回る見込みであります。なお、当第 2 四半期累計期間において、特別損失として関係会社貸倒引当金繰入額 133 百万円が発生しております。

## 2. 通期 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

当第 2 四半期累計期間の各利益が当初の予想値を上回りましたが、第 3 四半期以降の日米欧の景気の動向、為替相場の動向、原材料価格の上昇などのリスクを考慮し、連結業績につきましては第 2 四半期業績予想値に対する増額をベースに通期の予想値を修正いたします。なお、個別業績につきましては、景気の動向など先行きが不透明なことを考慮し、また、特別損失として関係会社貸倒引当金繰入額の発生があることより、売上高、営業利益、経常利益は前回の予想値を修正しませんが、当期純利益は前回の予想値を減額修正いたします。

※ 上記の予想は、本資料の発表時現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々の要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上